～市民と農業者をつなぐ
武蔵野市農業委員会だより～

むさし農

第17号　令和3年11月
編集・発行　武蔵野市農業委員会
〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28
Tel　0422-60-1833（直通）
Fax　0422-51-9408（直通）

武蔵野市農業経営改善協議会発足式

武蔵野市農業経営改善協議会は、発展的に解消した経営者クラブの理念を引き継ぎ、農業振興及び農地の保全を目的として、令和２年４月１日に発足しました。認定農業者・都市型認定農業者が会員となりますが、目的に賛同いただける方も『賛助会員』になることができます。発足式は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、本年７月１日に執り行われました。



▲左から青山東京都農業会議会長、松下市長、榎本農業委員会会長、中村 JA 東京むさし武蔵野地区筆頭理事、長倉 JA 東京むさし武蔵野地区統括支店長

当日は、（一社）東京都農業会議会長の青山俏氏より「東京の農業とまちづくり」をテーマに記念講演が行われ、その後、新規に認定を受けた農業者に対し、市長から認定書が交付されました。

認定農業者	38名 （令和３年度新規　５名）
都市型認定農業者	６名 （令和３年度新規　２名）

※都市型認定農業者については、農業委員会だより第 15 号 3 面に詳しく掲載しています。ご興味のある方は事務局までご相談ください。



▲認定書交付式の様子

令和3年度　夏野菜品評会



表彰式終了後、皆さんで写真撮影▲

夏野菜品評会は、農業者の栽培技術の向上と市内農業のPRを目的に実施している事業です。

昨年度は開催中止となりましたが、今年度は7月5日に審査、21日に表彰式を行いました。

第9回目となる今回から立毛審査を中止。出品品目も5品目に限定し、20名の方から合計46点の出品があり、過去最高となりました。

審査員からは「全体的にレベルの高いものだった」との講評をいただきました。



▲市長賞の枝豆

武蔵野市長賞	髙橋　嘉晴（境西部）	枝豆
武蔵野市農業委員会会長賞	田中　博崇（吉祥寺）	トマト
東京むさし農業協同組合長賞	井口　義一（関前）	とうもろこし
武蔵野市議会議長賞	髙橋　政孝（境西部）	ナス
武蔵野商工会議所会頭賞	髙橋　元久（境東部）	キュウリ

（敬称略）

夏野菜の直売会



6月29日と7月5日、JA東京むさし武蔵野地区青壮年部による朝採り夏野菜の直売会が、市役所玄関横で行われました。

部員はマスクとフェイスシールド着用、随時消毒したカートとカゴを使用する等の工夫を行い、感染対策に配慮しました。

訪れた方は嬉しそうに農産物を手に取り、約1時間で大好評のうちに完売しました。

◀ソーシャルディスタンスにも気を遣いました

農業　New Face



▲おいしそうなナスを収穫する弘さん

田中家は、江戸幕府８代目将軍徳川吉宗の時代から続く吉祥寺北町の名家。父・茂雄さんは８代目、長男の弘さんは９代目にあたります。

弘さんは、製薬会社の営業マンとしてバリバリ働いていました。

家業を継ぐのは長男の義務との考えから、退職を機に昨年就農されました。

直売所でお客様から「おいしかった」と声をかけられるときに喜びを感じる、と語る弘さん。ストレスもなく、楽しみながら営農しているとのことです。

今後の目標は、早く仕事を覚えて、父のレベルまで一人前に仕事ができるようになること。

吉祥寺地区の農業者からも信頼の厚い茂雄さんに技術を教えてもらいながら、多品種にわたる農作物の栽培に挑戦中です。

令和３年度には認定農業者にも認定されました。



▲今年 92 歳の茂雄さんと

子どもたちの農業体験



▲茶葉を丁寧に摘んでいました

７月１日に関前南小学校（鈴木健太郎校長）の４年生児童68名が、関前の櫻井義則さんの畑で茶摘み体験をしました。市内では、昭和40年代頃までお茶の生産がされていました。

児童は、茶どころのお茶トレーナーから指導を受けながら、茶葉の摘み取り、蒸し、揉み、乾燥までの一連の流れを経験しました。

お茶を淹れるところまで体験し、「自分たちで作ったお茶はとてもおいしかった」と嬉しそうに話していました。

市内2例目の生産緑地貸借



▲春夫さんと NPO 法人むさしのふれあい村の皆さん

平成30年に都市農地の貸借の円滑化に関する法律が施行され、生産緑地の貸借がしやすくなりました。

市内で２例目の事例となる今回は、農地を借りたい方と貸したい方から市とJA双方にご相談を頂き、この度のマッチングが成立しました。

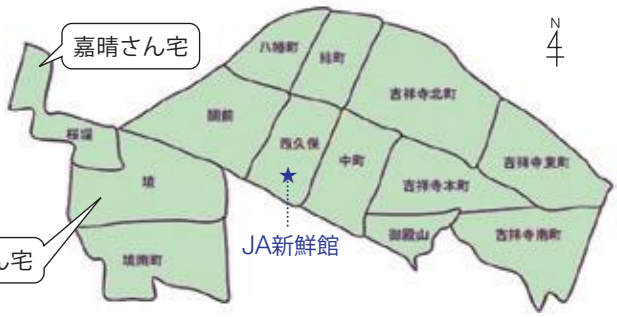
貸し手の榎本春夫さんは「農業委員会のお墨付きなので安心して貸すことができた。以前よりも作業が楽になって助かっている。」とにこやかに語っていました。

「新鮮で安全・安心な野菜はすぐそばに」 生産者の笑顔



武蔵野市内で
活躍する
農家の方々を
ご紹介します。

実（みのり）さん





豊（ゆたか）さん

髙橋（たかはし）　一男（かずお）さん
（境５丁目在住）



▲キウイ棚の下で

平成元年、相続で後を引継ぎ現況の栗畑を守ってきましたが、将来の動向を考え平成15年にブルーベリーに転向しました。

当初は、苗木をJAや業者から購入して独学で挑戦し、その後、果樹組合に加入しました。

年間を通してブルーベリーの他にキウイフルーツ・ビワ・梨・スモモ等を草生栽培で収穫しています。果樹の下を芝生等にすることで近隣の景観や土ぼこり対策そして乾燥も防げるので一石二鳥です。

冬の11～1月の日中に剪定した枝をチョッパーで粉砕し、ブルーベリーのたい肥にします。

レッドキウイ、ゴールデンキウイ等の時代の流れに合うような品質改良を心がけている研究熱心な一男さん。果実は新鮮館で販売しています。

自分の健康管理を重視しながら、毎年の果樹の順調な生育を楽しみにしています。

髙橋（たかはし）　嘉晴（よしはる）さん
（桜堤３丁目在住）



▲収穫を待つ枝豆畑で

小金井公園に隣接する桜堤３丁目で数少ない農家の髙橋家。

父・勘司さんの農業に対する真面目で真剣な姿勢を見て、いつかは自分も継ごうと思っていた嘉晴さん。

平成7年の自身が33歳のとき、父が医師から車の運転を止めるように言われ、それを機に就農されました。当時は市場出荷が中心で、雨の日でも一日中ホウレン草の収穫をするなど、鍛えられたことは懐かしい思い出です。

相続後は農地も減少したため新鮮館への直売に移行し、夏はインゲン、枝豆、秋はブロッコリー、キャベツ、大根等を中心に栽培しています。

今では自然の中で仕事ができる心の豊かさを感じながら、今後さらに市場ニーズにあった作物を育ててみたいと意欲を燃やします。

編集後記



▲左より大谷委員、櫻井副編集委員長、田邊委員長、下田委員、松本委員

「むさし農」第17号発刊にあたり、関係者各位にご協力いただきましたことを心より感謝申し上げます。

コロナ禍で活動が制限される中、武蔵野の農業従事者の皆様は、たゆみないご努力と工夫で、難局を乗り越え、新しい時代を迎えようとしております。今後もより多くの情報をお届け出来るよう編集委員一同頑張ってまいります。

スマホで検索

武蔵野市農産物直売所マップはこちら↓

武蔵野市農業委員会だより バックナンバーはこちら↓

食を育む。むさしのはこちら↓

特定生産緑地申請率

100%達成!

※申請者ベースの割合
※申請＝指定ではありません
※特定生産緑地に指定しない申請も含みます

ご協力ありがとうございました